



求められる議会として

下野市議会議長 秋山 幸男

新年明けましておめでとうございます。

市民の皆さまには、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

毎年12月に1年間を振り返って、世相を漢字一文字で表す行事が京都の清水寺で行われます。2018年は、「災」でしたが、改元となった昨年は、穏やかで平和な年になるよう「災転じて福となる」年を期待した方が多かったと思います。

しかし、昨年も、大規模な自然災害が多発してしまいました。特に台風15・19号による被害は想像を絶するものがありました。被災された皆さまが1日も早く平常な生活にもどれることを願っております。

海水温の上昇が「スーパー台風」の発生原因になり、かつて「50年に1度」といわれた災害が毎年発生してもおかしくない状況となっている中、地球温暖化を防ごうと立ち上がったスウェーデンの少女グレタ・トゥーンベリさん（16歳）の活動が大きく報じられ、話題となりました。それにもかかわらず、ドナルド・トランプ米国大統領が地球温暖化対策の国際枠組み「パリ協定」の離脱を宣言したことは、理解に苦しむ

ところです。

今、私達は、温暖化の大きな要因であるCO2削減に努力していかなければなりません。

災害が発生してからの復旧・復興には、多額の経費と時間が必要になります。防災・減災の観点から、原形復旧にとどまらず、改良復旧を積極的に視野に入れ、優先課題として議会でも取り組んでいく覚悟です。

さて、議会では、前年度に引き続き、議会活性化特別委員会を設置し、議会運営の効率化や活性化に向け、調査研究を進めているところです。

その一環として、「主要農作物種子法」廃止に際し、日本の種子保全の施策を求める意見書を提出するにあたり、農業・食品産業技術総合研究機構の視察研修を行いました。

また、「水道事業の現状と課題～安心、快適な水の供給確保～」と題した講演会を開催したほか、「下野市の健康に関する現状と課題」についての勉強会を行いました。

さらに、3月、7月と2回開催した市民と議員との意見交換会でいただいた意見要望は、議会でも取り組

む内容と執行部と協議するものに分け、昨年、初めて広瀬市長に市の行政に対する要望提言等を2度行いました。

その他にも、「まちづくりと都市計画」の勉強会を実施するなど、少しずつではありますが、議会活性化の取り組みの成果が出てきていると感じているところです。

今年度で第3回目となる中学生議会は、県下の他市町でも実施されておりますが、下野市では、中学生による模擬議会に留まらず、中学生議会として位置づけをしている点が特筆すべき点です。

今回、登壇され、質問された生徒の皆さまにとっては初めての経験であり、緊張されたかと思いますが、各分野にわたり、我々議員とは異なった視点から熱心に質問されました。中学生議員からの貴重な意見と要望等は、今後の議会活動の参考にさせていただく考えです。

今回、多くの市民の方々が中学生議会を傍聴していただきましたが、その中に中学生の姿を拝見すること

ができませんでした。市民が「幸せを実感できる」まちづくりのために下野市が各分野で行っている様々な取り組みを理解していただけるきっかけの機会ですので、傍聴していただけたらと希望するところです。

11月には、下野市文化協会のご協力をいただき、下野混声合唱団の議場コンサートを開催しました。最後に議員と傍聴席の市民とが全員で市歌を合唱する取り組みは、下野市を「ワンチーム」にする役割を果たしているように感じます。

今後、合併特例債の活用が終了し、厳しい財政運営が予想される中、いま何がなにかより、いま何があるかで発想し、知恵を出し合い、額に汗をかき、「積小為大」の精神で議会運営にあたりたいと思っております。

結びに、市民の皆さまにとって、より幸多き年になりますことと、今後とも議会に対し、より一層のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。新年のあいさつといたします。